

東桜コンピテンシー「⑨創造力」について ～その4～

⑨「創造力」

他人と同じことをよしとせず、常に新しい、より良い方法やアプローチがないかを考える力。既存の考え方や発想をもとにしたときでもその延長線上ではない、新しい付加価値を備えたものに昇華させることができる力。

新型コロナウイルスが世界を襲い、各国でマスク不足となる中、マスク在庫がリアルタイムで確認できるアプリ「マスクマップ」を開発。IT を活用していち早く問題を解決し絶賛された台湾のデジタル担当相、オードリー・タンさん。

台湾で最年少の35歳で大臣になったタンさんが、国民のニーズに沿ってどのような対応をしてきたのか。また、それが可能になった背景には何があり、その対応はどのような考えに基づいているのか。

今回は、その一端をTEDのタンさんのお話から考えてみましょう。

TED「どうやってデジタルイノベーションがパンデミックと闘い民主主義を強固にできるのか」から、オードリー・タンさんが話された内容を掲載します

過去の経験値を活かした台湾の対応

台湾が、どのようにしてデジタルデモクラシーツールの力を使って新型コロナにうまく対抗できたのかをお話できてうれしく思います。

ご存知のように民主主義は多くの人に参加するほど向上します。デジタルテクノロジーは参加を増やす最良の方法の1つとなります。反社会的メディアではなく、共通の土台を探すための、つまり社会性を高めるメディアに注目するからです。

デジタルデモクラシーに関して、今日お伝えしたい3つの鍵となる概念とは「**迅速 (Fast)**」「**公平 (Fair)**」「**楽しさ (Fun)**」です。

1つ目は「**迅速**」についてです。

多くの国家や地域が今年になって新型コロナウイルスに対応を始めましたが、台湾は昨年始動していました。

昨年12月、中国の李文亮医師が新たなSARSの症状があると警鐘を鳴らす投稿をした結果、彼は尋問を受け、結局中国の警察組織から処罰されました。

しかし、同時に台湾の投稿型SNSであるPTT（台湾で最大規模のオンラインコミュニティを形成しているインターネット掲示板）の掲示板には、nomorepipeという人物が李文亮医師の警告を再投稿したのです。台湾の医務官がすぐさまこの投稿に気づき対応を支持しました。武漢から台湾に向かう飛行機のすべての乗客に対して

健康観察を義務付けるという指示が出たのは、再投稿の正に翌日となる 1 月 1 日でした。

ここで 2 つのことがわかります。

まず、市民社会が政府を非常に信頼しているため、新たな SARS 感染拡大の可能性を公開の掲示板で発信できます。また、政府も市民を信頼しているため、SARS の再来を想定して、それを真剣に受け止めて対応します。

それは、2003 年以来、私たちが常に備えてきたものです。この開かれた市民社会のおかげで※ひまわり学生運動が国会を占拠した後の CIVICUS モニターによると、台湾は現在アジア全域で最も開かれた社会となっています。

私たちは、他の自由民主主義国家と同じ言論や集会の自由を享受していますが、常に開かれた精神を持つことに重点を置いています。社会からの新たな概念に対して……。だから、台湾の学校やビジネスは未だに都市閉鎖もなく、この 1 か月間地域内伝播は一件も確認されていません。

これが「迅速」の部分です。

※ひまわり学生運動：2014 年 3 月 18 日に、中華民国（台湾）の学生と市民らが、立法院（日本の国会議事堂にあたる）を占拠した学生運動から始まった社会運動。2014 年 3 月 17 日に立法院で、台中間のサービス分野の市場開放を目指す「サービス貿易協定」の批准に向けた審議を委員会で行っていたが、与野党が携帯型スピーカーを持ち込んで、100 デシベル程の「騒がしい言い合い」になっており、議事の進行を担当する与党・中国国民党の立法委員（議員）、野党・民主進歩党に占拠された講壇に上がることさえできなかったため、時間切れを理由に一方的に審議を打ち切った。そのため、反発が広がった。2014 年 3 月 18 日午後 6 時（台湾現地時間）ごろ、サービス貿易協定を反対するデモ活動が行われ、同日午後 9 時過ぎになって、300 名を超える学生のデモ参加者が立法院議場内に進入した。なお、台湾の歴史上、民衆によって議場が占拠されたのは憲政史上初めてである。立法院の外でも、学生たちを支持する市民が数千から数万人ほど集まり、デモを開いている。抗議活動には、学生や市民のほか、台湾最大野党の民主進歩党なども、学生と歩調を合わせ、抗議活動を拡大させている。（Wikipedia より）

男の子がピンクのマスクをつけて学校に行ってからかわれました・・・

台湾の中央感染症指揮センター（CECC）では、記者会見を毎回ライブストリーミングで行っています。

私たちは記者と協働して、職員は記者からのすべての質問に答えます。ソーシャルセクターから新たなアイデアが生まれるたびに誰かが電話を手にして 1922 にコールしてそのアイデアを CECC に伝えます。

例えば 4 月のある日、ある男の子が学校に行きたくないと言いました。ピンクのマスクしかなかったのを着けていたら、友達にからかわれたからです。

正にその翌日、CECC の記者会見で全員がピンクのマスクを装着し始め、皆がジェンダー問題をきちんと捉えるように訴えました。この種の迅速な対応システムが政府と市民社会の間に信頼を構築しています。

ピンク色のマスクを着けた政府の新型コロナウイルス対策本部長の写真はこちら

<https://ascii.jp/img/2020/11/10/3118544/1/42f0741df62af70e.jpg>

30 秒ごとに更新されるマスクの在庫状況

2 つ目の焦点は「公平性」です。

誰もが自分の国民健康保険カードを使って近所の薬局からマスクを入手できるよう手配し、6000 点あるすべての薬局のマスクの在庫状況を公表するだけでなく、30 秒ごとにそれを更新しています。それを使ってデジタル空間にいるシビック・テックの腕利きが、100 以上のツールを開発し、マスクの購入前に地図で確かめるとか、チャットボットとの会話や音声支援で、目の不自由な人も含めて誰もが自分の近くでマスクの在庫が残っている薬局の情報にアクセスできるようにしました。

国民医療保険の単一支払い者制度は、99.9%以上の人をカバーしているので、何らかの症状がある人たちは、マスクを入手したり、地域のクリニックを受診したりしても、間違いなく経済的な負担を負う事なく適正に対応してもらえます。

情報集約サイトが作られ、それを見てマスクの供給が順調なのか、それとも過剰や不足が生じているか確かめられます。私たちが薬局や社会全体とともにこの流通システムを共同して設計したからです。

データを分析すると、70%の人に行き渡った時点がピークになったことがわかりました。残りの 20%の人たちは大抵若く、長時間労働をしており、仕事が終わるときには薬局も閉店しているので、私たちはコンビニと協働して、誰もが 1 日 24 時間いつでもマスクを入手できるようにしました。

私たちはデジタルデモクラシーのフィードバックに基づいて、あらゆる面で公平性を確保しています。最後のポイントです。

デマよりもユーモアを

今は大変ストレスの多い時期だと思います。国民は不安を感じて行動が度を越し、パニック買いが多発し、経済全体で多くの陰謀論が起こっています。

台湾での私たちの偽情報対策の戦略は非常にシンプルです。それは「デマよりもユーモアを」と呼ばれています。

例えば、ティッシュペーパーのパニック買いが起きる時はこんなデマが生じます。

「今マスクの生産量を増やしているマスクとティッシュは同じ素材だからティッシュはすぐに不足してしまうだろう」

行政院長はネタ画像を作って答えました。とても大きなポスターの中で、院長がお尻を向け、ちょっと揺らしています。そこにはこんな見出しが書かれています。

「私たちにはお尻がひとつしかありません。」

もちろん表には、きちんと、ティッシュペーパーの原材料は南米産で、医療用マスクの原材料は国内産なので、一方の生産の増加がもう一方の生産に影響することはないと書いてあります。これは相当拡散しました。

これによりパニック買いは治まりました。1 日か 2 日経って、結局最初にデマを広げた人はティッシュペーパーの転売屋だとわかりました

蘇貞昌行政院長(首相)による「私たちにはお尻が1つしかありません」のポスターはこちら
<https://ascii.jp/img/2020/11/10/3118547/1/275b78a2ba543a95.jpg>

これは SNS 上で何かが始まった時だけの対応ではなく、毎日の記者会見の内容は、厚生省の報道用マスコット犬の登場する画像を使って多くのことを説明しています。

例えば、私たちの身体的距離はこんな説明になります。

「屋外では犬 2 匹分の距離を保つことが必要です。屋内では犬 3 匹分離れていましょう。」といった具合です。

手洗いのルールも説明しました。

これら全てが拡散されるので、事実に基づくユーモアが噂よりも早く広まるように気をつけています。

ユーモアは、ワクチンや予防接種として、国民が陰謀論を目にした時に、陰謀論の基本再生産数を 1 以下に抑え、その広がりを防ぎます。

ソーシャルディスタンスについて、衛生福利部のイメージキャラクターである柴犬（總柴）を使って作成した広報ポスターはこちら

<https://ascii.jp/img/2020/11/10/3118548/1/9098a4915f42f7db.jpg>

（参考・引用文献等）

今回掲載した内容を動画で視聴したい方はこちらから

TED「どうやってデジタルイノベーションがパンデミックと闘い民主主義を強固にできるのか」オードリー・タン

https://www.ted.com/talks/audrey_tang_how_digital_innovation_can_fight_pandemics_and_strengthen_democracy?language=ja

今回掲載した内容に関する記事

オードリー・タン氏「台湾のデジタル社会イノベーションはどう実現したか」

<https://ascii.jp/elem/000/004/033/4033626/>

令和2年（2020年）11月